

# Society 5.0時代の キャリア、教育、就職支援

まとめ



# 7つのポイント

パラダイムシフトが起こるSociety 5.0では、大学教育もその影響は免れない。まずは大学人自身が変化の真ただ中に飛び込み、これから世に出る学生のために大学の外から「学修者本位の教育」のあり方を考えよう。

これまで

これから

## 1 キャリア観

就活ルールに従い、  
入社した会社のルールに乗ること

自分のルールは自分で敷く  
自律型、多様化

従来の「日本型雇用」を前提としたキャリア観による教育では、卒業後の学生のキャリアを狭める可能性がある。

## 2 担当部署

キャリアセンター

全学教育、各学部教育の責任部署

キャリア教育や就職支援は大学教育とは別物ではなく、大学教育そのものであり、DPにつながる教育であると捉え直そう。

## 3 ターゲット

消極的な学生中心

積極層に対しても支援を拡大

もはや「就職率」が指標としての意味を半減させている今、意識が高く積極的に行動する学生対象の支援こそ自学の教育の価値を高めるのでは。

## 4 時期・期間

3年次～卒業まで

入学後～卒業後も継続する

3年次からのスタートでは「就活対策」止まり。「人材育成」を目的とするなら1年次から始め、卒業後のキャリアアップにも対応するリカレント教育も拡充しよう。

## 5 教育内容や手法

教員主導の内容、講義

社会で力を発揮することを想定した  
学修者本位の内容や授業

Society 5.0で求められる力や分野を自学として定義し、それにふさわしい手法も同時に検討を。

## 6 場

大学内

大学+企業や地域、海外

新しい時代の動きは、キャンパスの外にある。学生はもちろん、教職員自身も外に出て、外からも人を招こう。

## 7 指標

就職率、上場企業等  
主要〇〇〇社への内定実績

自学の教育の価値を表す、  
多様な指標

どこも9割以上の就職率で、大企業就職＝一生安泰という神話も崩れた今、何を指標にするかは、各大学の教育観を表していると言える。